

財団法人東北活性化研究センター  
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成23年11月東北分  
(新潟を含む東北7県)」について

財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成23年11月東北分（新潟を含む東北7県）」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

【基調判断】

●今月の基調判断…東北地域の景気は

「東日本大震災の影響があるなか、持ち直しの動きは緩やかになっている」

（据え置き）

- ・放射能汚染及び風評被害の影響が尾を引き、円高の影響も広がりつつあるなか、建設・住宅や求人などは震災復興関連で堅調さが続き、高額品や冬物にも一部動きがあるものの、低価格志向や買い控えの傾向もありまだら模様である。一方、先行きは引き続き建設・住宅や求人などの震災復興関連に加え、冬物などの年末年始以降の動きに期待があるものの、低価格志向や買い控えの傾向は変わらず、欧州の信用不安や円高などの懸念材料も多く、大きな変化は期待できない。このことから、総合的には東日本大震災の影響があるなか、持ち直しの動きは緩やかになっていると判断される。

【調査結果のポイント】

(1) キーワード

- ・プラスのキーワード  
…復興需要（現状、先行き）、冬物（現状）
- ・マイナスのキーワード  
…低価格志向・買い控え（現状、先行き）、放射能汚染及び風評被害（現状、先行き）、欧州の信用不安に伴う為替、株式（先行き）

(2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「49.8」（▲0.6）は、2か月ぶりに前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月ぶりに下回るが、下げ幅は小幅にとどまった。
- ・家計動向は、震災復興関連は一部に堅調さがみられるものの、落ち着いてきている。また、高額品や冬物の動きはまだら模様で、低価格志向や買い控えを背景に売上や客単価等が低迷している状況もうかがえる。DIは「48.4」（▲0.5）と2か月ぶりに前月を下回り、景気判断の基準となる50を4か月連続で下回るが、下げ幅は小幅にとどまった。
- ・企業動向は、農業で風評被害の影響が尾を引いているほか、自動車部品や半導体関連等

の製造業は円高の影響で厳しさを増してきているものの、建設や住宅、飲食等で復旧・復興関連の需要が続いている。DIは「50.6」(+0.6)と小幅ながら2か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を6か月連続で上回った。

- ・雇用動向は、地域によって雇用環境に厳しさがみられるものの、復旧・復興関連の求人は建設を中心に堅調である。加えて、事務系やコールセンターなどの派遣ニーズも出てきている。DIは「57.1」(▲3.6)と2か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を5か月連続で上回った。

### (3) 先行き判断(3か月先の見通し、方向性)

- ・先行き判断DI「46.6」(▲2.8)は、2か月ぶりに前月を下回り、景気判断の基準となる50を4か月連続で下回った。
- ・家計動向は、引き続き震災復興関連の需要に加え、冬物などの年末年始以降の動きに期待がみられるものの、景気回復の材料は乏しく、低価格志向や買い控えの傾向は依然として続く。DIは「45.7」(▲3.9)と2か月ぶりに前月を下回り、景気判断の基準となる50を19か月連続で下回った。
- ・企業動向は、第3次補正予算が成立したこともあり、引き続き復旧・復興関連の需要が期待されるものの、欧州の信用不安、円高、株安などの先行き不安材料が払拭されないことから、大幅な改善は見込めない。DIは「46.3」(+0.7)と小幅ながら4か月ぶりに前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。
- ・雇用動向は、欧州の信用不安とともに円高の影響から先行き不透明感が増してきているものの、建設を中心に復旧・復興関連の求人及び派遣依頼が引き続き見込まれることから、雇用環境に大きな変化はない。DIは「53.6」(▲1.2)と2か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を7か月連続で上回った。

以上

#### <添付資料>

- 調査結果の概要

#### <お問い合わせ先>

財団法人 東北活性化研究センター(担当:木村)  
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10  
TEL: 022-222-3394 FAX: 022-222-3395

## 【調査結果の概要】

### 1. 今月の基調判断

景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、東日本大震災の影響があるなか、持ち直しの動きは緩やかになっているとのことである。

### 2. 今月のDI※

#### (1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、「49.8」（▲0.6）と2か月ぶりに前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月ぶりに下回るが、下げ幅は小幅にとどまった。

	22年			23年										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北現状	38.6	42.0	45.1	42.8	48.9	16.8	23.5	35.7	52.8	59.5	49.9	47.8	50.4	49.8
家計動向関連	36.9	40.1	44.2	40.0	48.2	15.3	25.2	36.6	52.3	59.6	46.6	44.4	48.9	48.4
企業動向関連	38.4	45.1	47.6	44.5	50.0	18.2	23.1	36.5	59.9	57.5	52.5	52.6	50.0	50.6
雇用関連(参考)	50.0	47.6	46.6	57.1	51.2	23.8	13.6	28.6	42.9	63.1	66.7	60.7	60.7	57.1

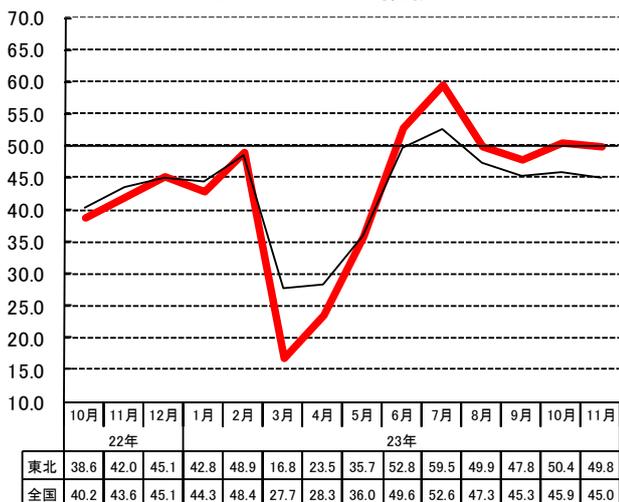
#### (2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、DI「46.6」（▲2.8）と2か月ぶりに前月を下回り、景気判断の基準となる50を4か月連続で下回った。

	22年			23年										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北先行き	37.1	40.1	43.5	47.9	47.6	21.1	36.7	45.4	49.2	51.0	48.6	46.7	49.4	46.6
家計動向関連	36.4	40.7	42.6	47.5	47.4	20.7	36.1	43.5	47.1	47.4	45.4	45.3	49.6	45.7
企業動向関連	37.2	37.2	45.1	47.6	46.2	19.6	39.1	47.3	53.3	56.3	54.4	49.3	45.6	46.3
雇用関連(参考)	41.7	41.7	46.6	51.2	51.2	26.2	36.4	54.8	56.0	64.3	59.5	51.2	54.8	53.6

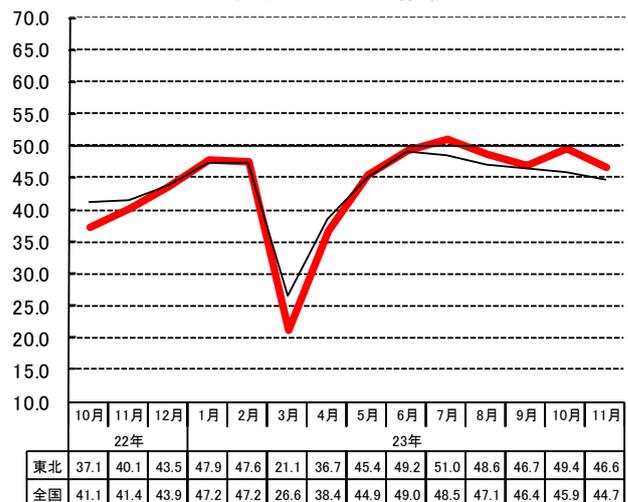
※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。

現状判断DIの推移



— 東北 — 全国

先行き判断DIの推移



— 東北 — 全国

### 3. 調査の概要

調査期間 平成23年11月25日～30日

回答者数 200/210名、回答率95.2%（全国1,877/2,050名、91.6%）

#### 4. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

##### （1）現状判断理由

###### ○「良くなっている」

（衣料品専門店）…ビジネス客が増えている。また、平成 25 年春卒業予定の学生の就職活動が 12 月から解禁となるため、就職活動を目的とした客の来店がこのところ集中しており、好調である。

（人材派遣会社）…長期の事務派遣オーダーが復活してきている。震災対応の需要は依然あるものの落ち着き、安定的に働ける良質なオーダーが入り始めている。オーダーのストックも出てきており、例年の繁忙期のような動きがうかがえる。

###### ○「やや良くなっている」

（百貨店）…生活用品は厳しいが、服飾、衣料品の売上が前年を上回っている。節電を意識しているのか冬に向けてのウォーム関連の商品の動きがいい。1 品単価や客単価等も上昇傾向にある。

（スーパー）…3 か月前に商圈内競合店がディスカウント業態に転換したことにより来客数及び売上に影響が出ていたが、それらが徐々に戻っている。販売量が伸びており、冬の節電がらみ、鍋材、暖房、小物関係の動きが良くなっている。

（家電量販店）…復興需要も感じられるが、寒くなり暖房機器関係を中心に販売量が増えている。今年は省エネがキーワードになっており、単価が比較的高い電化製品も出ている。

（乗用車販売店）…従来は必要最低限度であった顧客の車選びが、趣味し好に寄った車を選ぶように変化しており、結果として車両単価のアップにつながっている。

（都市型ホテル）…震災復興のための関係者の流入に加え、地元からの来客も多く、宿泊、レストラン、宴会部門共に前年実績を上回り、来客数と売上の好調が続いている。

（輸送業）…取引先の操業設備は全面的に回復している。当社の設備についてもほぼ回復した状態となっている。

（企画業）…住宅建築は東日本大震災以降停滞していたが、夏場までの復旧リフォームから新築需要へと徐々に移行しはじめている。被災地に限らず、県内各地の地元住宅メーカーの新築受注残が前年度に比べて 1～2 割ほど多い。小規模業者は大工の確保に苦慮する事態が発生しているほどである。

（新聞社〔求人広告〕）…国の雇用政策が徐々にではあるが浸透しつつあり、求人数が増加している。ただし、失業手当も出ているので、即雇用に結び付いていないのが現状である。

（職業安定所）…復興関連の求人や緊急雇用対策の求人など求人数は大幅に伸びており、求職者は減少していることから、有効求人倍率も上昇している。全体的に求人活動は活発である。

###### ○「変わらない」

（商店街）…日用品、雑貨及び食品を中心に前年比でプラスを維持しているものの、総体的に大きな変化は無い。最近の特徴では、持ち運びが可能な石油ストーブやペレットストーブの動きが良い。

（百貨店）…今月の売上は、全般的に好調に推移している。特に平均客単価と平均商品単価が前年比を上回っている。海外ブランド商品や時計宝飾品など高額品の動きが寄与している。

（スーパー）…集客のためのディスカウントチラシにより、売上、来客数共に伸びている。節約、低価格志向もあり、低単価品や特売品の売上が増加している。

（コンビニ）…レジ横のカウンターフーズは来客数を予想して仕込むが、ここ 1、2 か月、来客数が予想した数を下回り、廃棄することが多くなっている。

（乗用車販売店）…2012 年春のエコカー減税終了予定を前にした駆け込み需要がなく、販売量がなかなか伸びない。

（食品専門店）…8 月以降、非常に悪い状態が続いている。東北の畜産物への風評はまだ収まる気配がない。特に福島の米から規制値以上の放射性物質が検出され、国の検査態勢の信用度が失われたことも関係している。

- (一般レストラン) …値下げ競争が激しくなっており、単価を安くしないとなかなか売れない。
- (都市型ホテル) …東京電力福島第一原子力発電所の事故以降キャンセルが続いていたスポーツ大会が、例年通り開催されるようになってきている。ただし、全体的な動きとしてはまだまだ悪い。宿泊に関しては、特需が続いている。
- (美容室) …来客数が増加しており、売上は回復基調にあるものの、客単価は前年比 80%程度水準が続いている。景気の先行き不安により、来店を控えたり、来店サイクルを延ばして、様子見をしているように見受けられる。
- (食料品製造業) …年末に近づいて受注量は増加しているものの、景気が低迷しており、受注環境の改善は期待できず、前年実績をクリアするのが精一杯である。
- (建設業) …震災復旧及び復興関連工事の受注がコンスタントに推移している。
- (飲食料品卸売業) …繁華街や駅前などでの復興事業関係者による外食需要は依然として好調であり、清酒を始め酒類全般の動きは良い。
- (人材派遣会社) …特にコールセンターのニーズと建築関係の職人の募集が増えてきている。
- (職業安定所) …状況が良くなっているとはいえないが、求人数は確実に増加している。タイの洪水被害の影響で一時的に日本での生産に切替えるといった動きもあり、派遣の製造求人が増加している。

### ○「やや悪くなっている」

- (百貨店) …衣料品を始めとする冬の季節商材の動きが悪く、前年割れしている。食品も客単価、買上率共に前年に比べ低下している。
- (スーパー) …来客数の低迷に加え、青果、精肉の相場が下がっており、客単価も低下している。
- (コンビニ) …たばこ増税の売上効果が薄れてきたほか、買上点数でプラス1品が期待できるデザートやファーストフードなどの動きが鈍化している。
- (衣料品専門店) …気温が低下してきた現在でも、依然として単価の高いコートやジャケットの動きはなく、客からはセール待ちの声も聞かれる。
- (家電量販店) …すべての商品にいえることだが、単価が前年や2年前と比較して、大幅に減少している。そして、その減少を数量でカバーできない状況が続いている。
- (都市型ホテル) …宴会、レストラン、宿泊の各部門共に、単価を下げれば来客数は増えるものの、価格に見合った商品が提供できないのが現実である。デパート地下の惣菜店は利用人員が増加しているものの、主力の一般宴会の動きは非常に鈍くなっている。忘年会の予約状況も非常に厳しく、提案型営業と訪問件数の増加、新規物件のアプローチ以外に方策がない。
- (電気機械器具製造業) …円高、株安の状況が続き、企業の業績が悪くなっている。
- (職業安定所) …新規求人が前年比で減少に転じ、有効求人、有効求職共に前年比で減少していることにより、有効求人倍率も下降している。

### ○「悪くなっている」

- (衣料品専門店) …オーダー、修理共に客が本当に少ない。
- (農林水産業) …風評被害により、年末の贈答品の注文が例年の2割程度にとどまっている。
- (新聞社〔求人広告〕) …前年実績の大口広告の出稿が無くなるなど悪い話ばかりで、良い話は無い。

## (2) 先行き判断理由

### ○「良くなる」

- (衣料品専門店) …今後、当地域特有の初売り商戦を控えているが、ビジネスマンのなかには防寒衣料など冬物をしっかり揃えようという傾向があるため、需要増が期待できる。また、客の話を聞くと、震災復興などで仕事が忙しかったこともあり、衣料品購入に回せるお金が増えているようである。したがって、年末年始休暇などの休日には、買物やレジャーに動きがあるのではないかとみている。

## ○「やや良くなる」

- (商店街) …新たにサービス業の店が出店した反面、古くからの店が閉店するなど地元店が苦戦するなかで、中央資本の店舗の進出が盛んな状況は続く。
- (衣料品専門店) …買上客数は安定しており、1人当たりの買上点数が上がってきている。また、タンズ在庫にない気に入った商品なら多少高くても購入する客が増えてきている。そういったことから、今後も期待が持てる。
- (住関連専門店) …震災の影響も落ち着いてきて、ようやく自分の生活もできるようになるため、必要な物は出てくるようになるであろう。今月よりは若干良くなっていくと予想している。初売り以降、小学校入学関連や雛人形及び節句関連の商材が少しはプラスになると見ている。
- (建設業) …第3次補正予算の成立に伴い、大型の震災復興関連工事の出件の確度が上がっており、期待できる。
- (金属工業協同組合) …年度末に向けて製造業全体の動きが出てきている。特にここに来て半導体関連の動きが出てきている。また、タイの洪水被害の影響で仕事が一時的に日本に戻ってきていることに加え、海外製造等を見直すことを検討する動きも出てきている。また、有機ELの動きが良い。
- (新聞社〔求人広告〕) …震災復興需要で全国から支援企業等が集まっており、量は小さいがサービス業を中心に震災復興バブルが起きている。当面この状態は続くとしているが、特需的なものなので、この間に実質的な地元活性化が推進されることがポイントになる。
- (職業安定所) …新規求職者の減少基調が続くとともに、雇用調整を実施する企業も減少に転じている。また、円高やタイの洪水被害の影響はあまり聞かれず、求人の増加基調も続いている。

## ○「変わらない」

- (医薬品販売店) …店が飽和状態ということもあり、一般薬の売行きはだんだん悪くなってきている。客は、相談は当店で、購入は安い店というふうに店を使い分けている。そういった状態は今後も変わらないのではないかと見ている。
- (百貨店) …見舞い返しの需要は中元で一段落ついたとみられ、歳暮商戦では今のところ同様の需要は少ない。ただし、今後2、3か月は、冬物や梅春物の需要が続くと考えられるため、現状と比較して先行きに大幅な変動は無いと予想される。
- (スーパー) …寒さが厳しくなるにつれ、衣料の売上は伸びるが、生鮮類は産地も含めて今と大きな変化はないと見ている。また、客の買物行動は震災後と同様、特売価格をチェックして、店舗の使い分けを行うなど、無駄な出費を抑える傾向は続く。
- (衣料品専門店) …商品の品薄や入荷遅れが目立つなど、震災等の影響がいまだに続くなかで、運賃等の値上げにより利益の減少が今後も続くのではと懸念している。
- (家電量販店) …タイの洪水被害による商品の供給不足といった不安材料はあるものの、現在、省エネをキーワードに来客数及び客単価が上がっているため、プラスマイナスでそう変わらないと見ている。
- (乗用車販売店) …新車の個人需要は冬のボーナスの動向並びにエコカーへの関心の高まりから、今後発売が予定されている次世代環境対応車に期待している様子が見受けられる。一方、法人需要は一部の業種では活況を呈しているものの、昨今の超円高で身動きがとれず深刻な状態が続いている業種も数多い。また、代替サイクルの長期化が顕著であり、当面、市場回復の実感は持てず、低迷状態が続くのではないかと予想している。
- (ガソリンスタンド) …冬場に入り、復興需要が雪の影響で遅れる見込みであり、東北の高速道路無料化も冬場のことで観光需要にあまり寄与しないと予想される。総じて、しばらくは今のままの状況で推移する。
- (都市型ホテル) …宴会は法人や団体の新年会がメインだが、それ以外の新規受注は今のところ動きが無く、宿泊部門はオフシーズンとなり、レストランも天候に左右されやすいため、不安定な要素が多い。

(飲食料品卸売業) …受注、販売共に非常に悪い。まれにみるような悪さで、この先どうなるか非常に心配している。

(飲食料品卸売業) …復興事業関係者による繁華街の繁盛はしばらく見込めるが、在庫がひっ迫してきた地元清酒メーカーが出荷調整を始めたことから、年末以降、高止まりの状況が予想される。

(企画業) …地元住宅メーカーの場合、消化力に限界があるため過剰な受注を避け、適正棟数にとどめる傾向がある。そのため、受注が多い現状のまま推移する。ただし、業界全体としては棟数は増加する見通しである。

(人材派遣会社) …円高の問題や欧州の信用不安等々で先行きが不安な部分はあるが、震災の特需があるという顧客の声もあり、しばらくは現在の状態が続く。

(職業安定所) …雇用情勢が好転する材料に乏しく、超円高の影響が一層懸念されることと、冬期間に入り求人数の減少も予想されることから、求人倍率は一進一退が続くと見ている。

(職業安定所) …求人活動は活発であるが期限付き雇用の求人が多く、正社員の割合は減少傾向にある。また、製造業では円高の影響も徐々に始まっており、状況が良くなるような材料は見受けられない。

## ○「やや悪くなる」

(百貨店) …復興バブルの様相を呈している地域もあるが、当地域は全くの蚊帳の外で、雇用が回復していない。したがって、今後2、3か月の回復は難しい。

(コンビニ) …前年のたばこの駆け込み需要の反動減による販売前年比の増加が薄れ、下降してくる。また、たばこ以外の商品販売についても改善の見込がない。

(観光型ホテル) …週末は混んでいるものの、平日は東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う風評被害によるためか、特に遠方からの客が減っている。この先についても、デフレによる客単価の低下や来客数の減少は続くとしている。現在の予約状況からも厳しくなることが予想される。

(観光型旅館) …現状の予約販売状況では回復は期待できない。大型観光キャンペーンもほかのエリアが中心であり、その影響がマイナスに振れる可能性が高く、楽観視できない。

(都市型ホテル) …忘年会は例年通りであるが、新年会の予約率は非常に悪くなっている。婚礼の動きも鈍化している。復興特需も下火になり、先行きはやや悪くなるのではないかと予想している。

(食料品製造業) …年末の需要期が終わり、家庭での在庫も増え、新規購入が少なくなる時期である。競争も激しく、例年以上に厳しくなることが予測される。

(広告業協会) …第3次補正予算では、復旧、復興のハード面を中心に組み立てられているが、観光PRやイベントといったソフト面は組み立てられていないため、広告業界は復旧、復興需要が一段落すれば市場は厳しくなることが予想される。

(職業安定所) …円高の影響で県内の工場を県外の本社に集約し閉鎖を予定する企業や、県内工場での生産を海外生産に切替えて、県内工場はコールセンター化を検討している企業もある。円高の影響が徐々に出て来ている。

## ○「悪くなる」

(スーパー) …人口減少にもかかわらず店舗出店が多く、完全なオーバーストア状態にあるため、競争は激化し、デフレが更に進む。

(一般機械器具製造業) …自動車部品については、輸出環境が極めて厳しい状況にある。加えて、欧州の信用不安に伴う混乱やタイの洪水被害の影響も懸念される。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上